

# 病理部・病理診断科

## 1 構 成 員

	平成 26 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
病院教授	1 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	3 人	(2 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	2 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	6 人	
その他（技術補佐員等）	1 人	
合計	13 人	

## 2 教員の異動状況

馬場 聡（部長・病院教授）（H18.6.1～現職）

土田 孝（副部長・助教）（H19.4.1～現職）

## 3 研究業績

	平成 25 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	3 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	13.66	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	8 編	(5 編)
そのインパクトファクターの合計	1.94	

### (1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Sano M, Sasaki T, Hirakawa S, Sakabe J, Ogawa M, **Baba S**, Zaima N, Tanaka H, Inuzuka K, Yamamoto N, Setou M, Sato K, Konno H, Unno N. Lymphangiogenesis and angiogenesis in abdominal aortic aneurysm. PLoS One. 9(3): e89830, 2014 【外科学】 [3.73]
2. Miyazaki S, Kikuchi H, Iino I, Uehara T, Setoguchi T, Fujita T, Hiramatsu Y, Ohta M, Kamiya K, Kitagawa K, Kitagawa M, **Baba S**, Konno H. Anti-VEGF antibody therapy induces tumor hypoxia and stanniocalcin 2 expression and potentiates growth of human colon cancer xenografts. Int J Cancer. 135(2): 295-307, 2014 【外科学】 [6.20]

インパクトファクターの小計 [9.93]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Shibahara H, Higashi M, Koriyama C, Yokoyama S, Kitazono I, Kurumiya Y, Narita M, Kuze S, Kyokane T, Mita S, Arai T, Kato T, Yuasa N, Yamaguchi R, Kubota H, Suzuki H, **Baba S**, Rousseau K, Batra SK, Yonezawa S. Pathobiological Implications of Mucin (MUC) Expression in the Outcome of Small Bowel Cancer. PLoS One. 9(4): e86111, 2014 【外科学】 [3.73]

インパクトファクターの小計 [3.73]

## (2-1) 論文形式のプロシーディングズ

## (2-2) レター

## (3) 総説

## (4) 著書

## (5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Suzuki S, Toyoshima M, Nihashi F, Tsukui H, **Baba S**, Sugimura H, Suda T. An autopsy case of malignant pleural mesothelioma associated with nephrotic syndrome. Intern Med. 53(3): 243-246, 2014 【内科学】 [0.97]
2. Suzuki M, Kawasaki H, Masaki K, Suzuki SO, Terada T, Tsuchida T, Tokuyama T, Kono S, Komori T, **Baba S**, Kira J, Miyajima H. An autopsy case of the Marburg variant of multiple sclerosis (acute multiple sclerosis). Intern Med. 52(16): 1825-1832, 2013 【内科学】 [0.97]
3. Fujita T, Kamiya K, Takahashi Y, Miyazaki S, Iino I, Kikuchi H, Hiramatsu Y, Ohta M, **Baba S**, Konno H. Mesenteric paraganglioma: Report of a case. World J Gastrointest Surg. 5(3): 62-67, 2013【外科学】 [0.00]
4. 安立 匡志, 平井 強, 児嶋 裕香, 勝又 佳菜, 田村 直頭, 福嶋 真由, 馬場 聡, 川合 健太, 加藤 誠, 村上 浩雄, 下山 華, 柴田 俊章, 伊東 宏晃, 杉原 一廣, 金山 尚裕. 成熟嚢胞性奇形腫より発生した卵巣粘表皮癌の一例. 静岡産科婦人科学会雑誌 2 巻 1 号 4-10, 2013. 【産婦人科学】 [0.00]

5. 甲斐 文丈, 永田 仁夫, 古瀬 洋, 大園 誠一郎, 馬場 聡. 乳腺転移をきたした膀胱癌. 臨床泌尿器科 67 巻 12 号 987-990, 2013. 【泌尿器科学】 [0.00]
  6. 森 達吉, 伊藤 泰介, 目黒 史織, 馬場 聡, 犬塚 学, 戸倉 新樹. Langerhans 細胞肉腫の 1 例. 臨床皮膚科 67 巻 10 号 803-807, 2013. 【皮膚科学】 [0.00]
  7. 大石 康介, 坂口 孝宣, 稲葉 圭介, 森田 剛文, 鈴木 淳司, 福本 和彦, 馬場 聡, 鈴木 昌八, 今野 弘之. 肝膿瘍消退部位に発見された肝細胞癌の 1 例. 日本消化器外科学会雑誌 46 巻 2 号 91-97, 2013. 【外科学】 [0.00]
- インパクトファクターの小計 [1.94]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 渡邊 克隆, 久世 真悟, 京兼 隆典, 高木 健裕, 馬場 聡, 河崎 秀陽. 肝内結石による区域性胆管炎に合併した肝炎症性偽腫瘍の 1 例. 日本消化器外科学会雑誌 46 巻 10 号 725-733, 2013. 【外科学】 [0.00]
- インパクトファクターの小計 [0.00]

#### 4 特許等の出願状況

	平成 25 年度
特許取得数 (出願中含む)	0 件

#### 5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 25 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	0 件	(0 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件	(0 万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0 件	(0 万円)

#### 6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

#### 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	0 件
(3) 学会座長回数	0 件	0 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	0 件
(6) 一般演題発表数	0 件	

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

## 9 共同研究の実施状況

	平成25年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

## 10 産学共同研究

	平成25年度
産学共同研究	1件

1. (株)キャノン、「テラヘルツ波臨床応用に関する共同研究 ～ヒト病理組織を用いたテラヘルツ波分光～」

## 11 受賞

### 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

### 13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

### 14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

### 15 新聞，雑誌等による報道